

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書7章12節

150th
Toward the 150th
Anniversary in 2028

2025年
創立147年

2025年(令和7年)
3月18日 第21号

梅花女子大学

チャペル・ニュース

Chapel News



發行

梅花女子大学宗教部
〒567-8578
茨木市宿久庄2-19-5
072-643-6221(代)
072-643-8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館1階

大阪教会創立150周年

昨年、日本基督教団大阪教会キリストが創立150周年を迎えました。

梅花女学校は梅本町公会と浪花公会という二つの教会から生まれました。梅本町の「梅」と浪花の「花」で「梅花」となつたと成瀬先生の開校の式辞にあり、梅花は校名に教会立学校であることを記録しています。梅花の創立者はまた浪花公会初代牧師の澤山先生ですが、この浪花公会を生み出したのも梅本町公会でした。なお梅本町公会はすぐに梅本町を離れ大阪基督教会と名を変えています。



その創立は1874年5月24日。4月19日に生まれた神戸教会に続く日本で二番目の会衆派教会です。神戸教会の創立礼拝には大阪教会創立メ

ンバーの5名が、大阪から徒歩にて参加していました。73年に切支丹禁制の高札が降ろされて、宣教師たちによって港町であつた神戸と大阪に蒔かれていた福音の種から教会が生まれたのです。創立の場所はもちろん梅本町。大阪メトロ阿波座駅から木津川を渡つたあたりがかつ

本町公会が生まれます。居留地ではすでに73年から聖公会の医療宣教師ラニングが診察を始めていたこと、ゴードン宣教師が、医学を修めていたこともあり、医療関係者が集まる環境が整つていたようで、5名のうち後々まで教会を支える高木玄真や安田三折も医師でした。

ての川口居留地で、今も川口基督教教会という聖公会の煉瓦造りの教会があり、その脇の「大阪の近代教育発祥の地」という碑には梅花学園のロゴマークも刻まれています。ただし居留地隣接の雑居区画だった梅本町はそれよりも南で、松島公園の近くです。

76年にこの教会で洗礼を受けた松村矩明と先の高木玄真、また新たに派遣されてきた医療宣教師アダムスらが松村診療所という病院を開設して、それが澤山先生の最初の働きの舞台となつり、浪花教会創立の場所となつていきます。大阪教会の創立から大阪のプロテスタント・キリ

72年の7月にギョーリック宣教師夫妻が、10月にはゴードン宣教師夫妻が梅本町に居を構

スト教の歴史が始まります。そこから浪花教会創立まで3年、梅花女学校創立まで4年です。

え、隣家を借りて英語学校を始めていました。73年3月からはその学校で礼拝が始められ、11月に後に澤山先生を牧師の道へと誘うレビット宣教師を含む宣教師3名が新たに着任し、そうして74年の5月、5名がゴードン宣教師から洗礼を受け、2名が東京、横浜から転入会して梅



〈チャペル・アワーの奨励より〉

「あなたが祈りたくなる時ってどんな時？」

本学管理栄養学科教授 玉置 好徳



I. 日常生活での祈り

皆さん、こんにちは！

最初に少しだけ言い訳をさせていただきます。実は今日、私はピンチヒッターとしてこの場に立っております。本来ご登壇される予定だった先生のご都合が悪くなってしまうしまして、高田先生に頼まれて急遽この場に立つことになりました。ですから、他の先生方のように立派なお話はできませんので、どうかご容赦ください。

私はかしこまった場が苦手として、礼拝の時間もなるべく隅っこの方に座るようにしています。そう、今こっちを見た後ろに座っているあなたと同じです(笑)。



そんな私でも、何気なく祈っている時があります。たとえば……阪神タイガースの野球中継を見ていて、「ここで決めてくれ！」というときに手をこすり合わせて祈っています。今年は惜しくも優勝には届きませんでした。来年こそまた優勝できるようにと、もう今から心理学科の福井斉先生と一緒に祈っています(笑)。

それから、お正月には神社に初詣に行きます。ほんの少しだけお賽銭を入れて、それじゃ割に合わないぐらい沢山の願いごとをしてきます(笑)。

このように、私の日常生活には、ごく自然に祈りが根付いているようです。

II. 私が祈りたくなった時

こんな信仰心が薄い私でも、心から真剣に祈らずにはいられなかったことがあります。それは、

今から2年前の6月のことでした。私には妻と子どもがいて、皆さんのご家族と同じように、時には笑いながら、時には喧嘩しながら、何気ない日々を過ごしていました。

ところがある時から、人一倍元氣な妻がよくつまずいて転ぶようになりました。元からおっちょこちよいなので、そのせいかとも思ったのですが、息子が「最近母さんの様子がおかしいよね」と、いつになく真剣に言ってきました。「そうかな、いつもとあまり変わらないと思うけど」と軽くいなしたのですが、それでも「何でもないところで転びすぎるし、言葉もはつきりしない時があるから、一度病院に連れて行った方がいいんじゃない？」というので、近所の病院に妻を連れて行きました。

すると、いつもの担当医が「MRIを撮りましょう」と言いまして。後日その結果を聞きに行くと、妻と一緒に話だったので、見ようにという話だったのですが、終わりに「ご主人だけ残ってください」と言われました。

この展開は医療ドラマみたい

だと、どこか人ごとのように考えながら「どうかしましたか？」と尋ねると、いつも穏やかな医師がいつになく真剣な表情で「ご主人、落ち着いて聞いてください」と言いました。それでもまだ心の中で「こんなシーンもあるよな？」とのんきに思いながら、「どうかしましたか？」と重ねて聞くと、「この写真を見てください」と妻の頭部MRI写真を見せられました。

そして、脳の中心部を指して「ここに影が映っているのですが、これは良くない影かもしれない」と言った直後に、「今すぐ入院してください」と畳みかけるように言われました。そして、「かなり悪性のがんかもしれないので、今から覚悟をしておいてください」と、余命宣告までされたわけです。まるでドラマのクライマックスに向かうシーンが、自分の身に起きているわけです。その後、「まだ確定診断ではないので、他の検査も受けてください」とは申し添えられたのですが、頭の中はもう「妻が死ぬかもしれない」というフレーズで埋め尽くされてしまいました。

でも、それを妻に悟られてはいけないので、何気なく「今から入院することになったよ」と伝えましたが、それでも妻はとても驚いた様子でした。

その後、いくつかの検査を受けて、中には脳細胞の一部を採集して分析する検査もありました。そして、1か月、2か月と時間が経っていききました。

先ほど高田先生に経歴をご紹介いただきましたが、私は福祉の現場で働いてきまして、いろんな人たちと出会ってきました。その中には「この人、本当に気の毒だな」と思いながらも顔には出せず、でも心の中では涙が止まらない場面もありました。大学でも大変痛ましい状況に遭遇したこともありましたが、それもなんとか対処してきました。

そのような時には、いつも「大丈夫」と自分に言い聞かせて、空元気でなんとか乗り切ってきたのですが、今回ばかりは、妻の余命宣告という想定外の出来事でした。いつもそばにいてくれるのが、まるで空気のように当たり前になつていた、その妻が突然いなく

なるかもしれないと言われたら、いつもの空元気など屁の突っ張りにもなりません。

そこには、何もできない無力な自分がポツンといるだけでした。そんな僕に何ができるのか。その一つは、子どもたちに弱いところを見せたら不安にさせてしまうと思つたので、いつもと変わらず過ごすようにしていました。もう一つは、家事、子どもたちの世話、

その他諸々、今まで2人で分担していたこともが全部僕のところ押し寄せてくるわけですね。朝晩のご飯を作らなければいけないし、子どもに弁当も持たせなければいけないし、もちろん大学で授業もやらなきゃいけないし、おまけに泣きついてくる学生さんの面倒も見なきゃいけないし(笑)、いろんなことがまるでゾンビのように次々と襲いかかってくるものですから、それらをこなすのに朝から晩まででなくて舞いの日々でした。それでもたまには5分ぐらい時間が空くこともありまして、そんな時には素の自分に、無力な自分に嫌でも戻らざるを得なくなるわけです。では、そんな時どうす

るかと言えば、妻の命が助かりますようにとひたすら祈る、それしかありませんでした。そこまで追い詰められた状況というのは、たぶん私の人生で初めてだったと思います。それが、私が心の底から祈りたくなる時でした。

実は私自身にもちよつとした持病がありまして、これまで命にかかわる場面もありましたが、「運が悪けりや死ぬだけさ」というように自分の命などは諦めもつくものです。でも、そばにいてくれるのがごく自然な間柄になつた人が、ある日突然いなくなるといふ状況は、それとは比べ物になりませんでした。それは別次元のことでした。

そこではもう無力な自分として祈るしかない。その先が主イエスなのか、仏様なのか、八百万の神様なのか分かりませんが、とにかく祈る。命が助かりますように、そう祈るだけでした。

それが通じて神様が手を差しのべてくださったのか、それともお医者さんたちの懸命な治療が功を奏したのか、妻は幸いにも命を取り止めました。ただ、今も身体

に若干障害が残っていて不自由な思いをしています。なるべくサポートしようと思うのですが、「車を押すのが下手ね! あなた本当に社会福祉士なの?」と言われてしまったので、返す言葉もございません(笑)。

おかげさまで今では、もう一人で歩けるようになり、職場復帰に向けたりハビリに毎日いそしんでいます。

では、今度は少し角度を変えて、聖書の話の時代のことを考えてみましょう。これまでも高田先生が授業やチャペルでお話されてきたかと思いますが、特に最初の頃イエスの教えに従った人々には貧しい人々が多かったです。社会の片隅でひっそりと生きていて、文字を読むこともできない人たちが多かったわけです。でも、神様に届くようなお祈りがしたいということ、先ほど高田先生がお読みになった聖書の一節にありましたように、誰にでもできる祈り方をイエスが授けてくださったわけですね。それが先ほど一緒に唱えた「主の祈り」になるわけです。これならば、たとえ文字が読めな

かつたとしても、日々の仕事に追われていたとしても、誰でも覚えられごく短時間でできる祈りの形です。それを代々受け継いできた人々の祈りも積み重なって、さらにそれを受け継いで私たちは今の場に在るわけですね。

もちろんこの中には、生まれ落ちたキリスト教徒もいれば、大学に入ってからこういう場に出会って、ちよつと照れ臭い思いをしながら、あるいは、どこか違和感を覚えながら、参加しているという方もいらっしゃるかと思います。それでも構わないのではないのでしょうか。

Ⅲ．御利益を超えて

ところで、また私の話に戻りますが、昨日、豊中市の服部天神のお祭りに行つてまいりました。足の神様を祀っていることで全国的にも有名なので、妻がもつと歩けるようになりますようにと願をかけてきました。妻本人も、もつと歩けるようになりたいと願をかけておりました。それは要するに神様のご利益を期待しているわけです。この世の中で行われている祈

りには、少なからず欲得が含まれているかもしれません。

ですが、祈りにはそれだけにとどまらないものがあるのではないかと、最近思うようになりました。皆さんの記憶にも新しいところだと思いますが、今年の元旦に能登半島大地震がありました。突然の大きな揺れに見舞われて、一瞬のうちに何もかもが破壊され、愛する人が姿を消してしまうこともありました。ついさつきまでテレビを見て笑っていた人が、次の瞬間に命を奪われる——そんな大災害が起きたのです。さらには、最近同じ能登半島を集中豪雨が襲いました。被災地に大雨が降り、再建しようと立ち直ろうとしている矢先に、また振り出しに戻ってしまった方々もいらっしゃると思います。これらの人々が何も悪いことをしたわけではないのに、こんなにも辛い思いをさせられることがあるのです。もしかしたら私たちの身近にも苦境にある方々がいるかもしれない。この大学の中にも親族や関係者がいるかもしれない。また、視野を広げてみますと、聖書によく出てくる地域、ガザや

レバノン、パレスチナが今まさに大変な状況にあります。紛争が起き、銃弾が飛び交い、突然の爆発で命を奪われることが日常茶飯事になってしまっています。学校も病院も安全とは言えず、無差別に銃弾が飛び交う状況です。このような状況を見て、遠い国の出来事だからと切り捨てることができのでしょうか？

今の日本では安全に暮らしていられるとしても、今後もその安全が保証されるとは限りません。もし私たちが、その人たちを他人事として切り捨ててしまうなら、私たちもいつか同じように誰かに切り捨てられるかもしれません。だからこそ、他人事と思わず、自分たちにもかかわりがあると考えるべきだと思います。

では、何ができるのでしょうか。もちろん、国連の職員や特殊な技術がある人などは現地に入つて活躍することもできるでしょう。しかし、それができるのは一部の人に限られます。私たちにできることとしては、献金などが考えられます。また、今すぐにでも、世界の平和や安全を祈ることならでき

ます。どうせ祈つたところで紛争など解決しないし無駄だと思ふかもしれませんが、そうした思いを戦争指導者たちに届けなければ、事態は悪化する一方かもしれません。ですから、祈ることもまた私たちができる支援の一つではないのでしょうか。

Ⅳ．結びに代えて

本日は、「あなたが祈りたくなる時ってどんな時？」というタイトルでお話をしてまいりました。非常に個人的な話をしましたが、ここにいる誰しもが祈りの経験をお持ちだと思います。そして、そうした祈りが受け継がれ積み重なって、今この場ができあがっています。せっかく身近にこういう場があるのですから、普段は仏壇や神棚に手を合わせる人も、信じる場所はそれぞれにあつて構いませんが、祈りを分かち合える場をこれからもともに大切にしていければと思います。

以上で私の話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「人にしてもらいたいと思うこと、できてる？」

本学国際英語学科准教授 北村 伊都子



皆さん、こんにちは。ただいま、紹介していただきましたが私はこの大学の国際英語学科でお教えしている、北村と申します。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、私は、梅花の卒業生です。その私が、このチャペル・アワーでお話しさせていただけること嬉しく思います。お声をかけてくださった高田先生、ありがとうございます。

まず、昨日おとといの石川県を含む北陸の大雨で、被害に遭われた方がもし皆さんのご家族・ご親戚・お知り合いの中にいらっしゃったら心よりお見舞い申し上げます。

さて、今日のお題は「人にしてもらいたいと思うこと、できてる？」です。せっかく卒業生の私がお話させていただくのですから、スクールモットーにちなんだお話を、エアラインでの経験などを踏まえてお話しさせていただきますと思います。

皆さんにとって「人にしてもらいたいと思うこと」には、どんなことがありますか。

「やさしくしてほしい」「仲良くしてほしい」「大事にしてほしい」？

それとも「ほっといてほしい」でしょうか。

エアラインのCAのお仕事というのには、お客様一人ひとりかと思っていられる、この「人にしてもらいたいと思うこと」を限られたフライト時間内でできる範囲でかなえるお仕事になります。といっても、CAは神様ではありません。

ません。それぞれのお客様が何をしてほしいかなんて、正直なところ、わかりません。それに、国や文化の違いなどで、良かれと思っただけのことがお客様にとって「やってほしくないこと」である場合もたくさんあります。

私がCAとして経験したことでも、印象的だったことをいくつかご紹介します。

機内には素敵なお客様もいますが、残念ながら難しいお客様もいらっしゃいます。一度、機内でこれ以上ないほど不愉快なお客様に出会ったことがあります。横柄な態度で、私たちCAを召使のように見下して物を言う、ちよつとしたことに目くじらをたてて、文句ばかり言う、といった感じです。皆さんのアルバイト先にもそんなお客様、いらっしゃったりしませんか。もしかしたら、予約や地上の接客の中で不愉快なことがあつて腹が立ってる？ だったら、CAのおもてなしの力でリカバーして次も自分たちの会社を選んでもいただけるよう、いろいろ手をつくしました。が、どうやってもダメでした。

CAも人間です。正直なところ、何をやっても文句を言う人のところにはなるべく行きたくなくあります。他のお客様に旅先でおすすめのレストランのお話しやお買いもの情報のお話をしているも、そのお客様のところには何となく行きません。そうすると「なんで私はほっとかれるの！ 同じお金を払っているのに!!」と、より怒り出されました。もうこうなったら大変です。何をしても、苦情の嵐です。でも、なぜそうなったのでしょうか。お客様ご自身は、きつと他のお客様と同じように大事にされたかったのでしょうか、横柄な態度・失礼な物言い・文句のせいで、それが手に入らなかった、ですね。

こんなお客様もいらっしゃいます。天候が悪くて揺れが大きく、しかも満席のフライトでバタバタの時、あるお客様が、ちよつと遠慮気味に、しかも丁寧な言葉で「あとでいいので、お水をいただけませんか。お時間のある時に……」とおっしゃいました。しかもにっこりと微笑みながら。私から見れば、かなり年上の方です。皆さん

だったら、こんな風に頼まれたらどうでしょう。もちろん、私は水をすぐに持っていました。

すると、また丁寧に「忙しいのに、ありがとう」とお礼を言ってくださいました。満席で大変なフライトの疲れが吹き飛ぶ思いです。その後、そのお客様のことがCAの中でも話題に……「すてきよね」年を重ねたら、あんな風になりたいものね」と。

フライトが終わると、CAは現地で滞在することができます。シंगाポールにステイした時、晩ごはんは歴史のあるレストランに行きました。よいおもてなしを勉強することもかねて、すてきなレストランに行くのだから、おしゃれをして。海外では、ドレスコードというものがあります。いいレストランでは、場にあった服装をしてレストランの雰囲気壊さないことが、お客様にも求められます。服装には気をつけましたが、私は致命的な失敗をしてしまいました。まだフライトを始めたばかりで、海外事情にうとくて、うっかり予約をしないまま行ってしまいました。

レストランの受付に行って「すみません、2人です」といったところ、当然、レストランの方は「ご予約は？」と聞きます。ここで初めて、レストランに対して失礼なことをしたことに私は気づきました。

どうしようと思ひながら「すみません、予約をしてくるべきでしたが、うっかりしていて」とできるだけ丁寧にお伝えしてみました。そして「このレストランはおもてなしが素晴らしいと有名なので、仕事の参考として、そして自身の楽しみとして、ぜひお食事をできたらと思う……今日しか泊まれないので、明日には帰国してしま

うので……」と。この時の私の物言いのお手本は？もちろん、先ほどご紹介したお客様たちです。すると、レストランの受付の方は「お名前は？」と聞いてくださいました。私が名乗ると「今、ご予約いただきました」とウインクして恭しくお辞儀をし、お席にご案内してくださいました。まるで映画のワンシーンのような瞬間です。

もちろんお席に余裕があったからでしょう。でも良いレストランは品格を保つために突然のお客様は断ることがあります。できるだけ丁寧に見てみたこと、そして中に入ってからわかったのですが、レストランにマッチしたドレスコードを守った服装であったことが私たちをお客として受け入れる決め手になったようです。

お客様は飛行機に乗られた時、もちろん自分がしてもらいたいと思うことをしてもらえると楽しみにしていらっしやいます。そしてCAも、してもらいたいと思う頼み方・接し方をしてもらえたらよい良い関係が気づけます。「人にしてもらいたいと思うこと」をお互いにしあうことが、気持ちよく過ごす秘訣です。

今、皆さんは私のお話をどんなふう

に聞いてくださっていますか。目が合つて、よく聞いてくださっているのがわかる方もいらっしやいますね。ですが、おしゃべりをしている人、そしてスマホかしら？ご覧になって、全然聞いていないのでは……という方もいらっしやいますね。どうでしょう？

う？ご自身がお話しをする時、相手が自分の話を聞かずに、おしゃべりをしたり、目の前でスマホを触ってばかりいたりしたら、皆さん、どう感じられますか。それは「人にしてもらいたいと思うこと」をしているのでしょうか。自分がやった行動は、何かの形で必ず自分に跳ね返ってきます。そして、必ず皆さんの行動は誰かに見られています。見られて、知らないうちに評価されています。その評価が跳ね返ってきたときに、嬉しい思いをするのか、それとも残念な思いをするのかは、それは自分次第です。

ぜひ、皆さんお一人一人、自分たちがしてもらいたいことは何なのか、深く考えてみませんか。そして、その考えついたことを、お友達・ご家族・大学の先生方にしてみませんか。きっと、それによつて相手の態度が変化すること気づくと思います。エアラインのお仕事の中で、私がたくさんのお客様から気づいたように。

以上でお話を終わります。聞いてくださり、ありがとうございます。

〈チャペル・アワーの奨励〉

「臆せずに飛び込んでみる」

本学企画部職員・同窓生 大前 思枝



こんにちは。

企画部広報グループの大前です。本日はよろしくお願いいたします。

私自身、梅花女子大学の児童文学科の卒業生で、今は企画部広報グループで学園の広報に関わるお仕事させていただいています。プライベートでは、大学生と高校生2人の娘の母でもあります。

今日、こうして皆さんの前で話をする機会をいただくことになり、中学・高校時代のことを思い出していました。私は中学・高校とキリスト教主義の学校に通っていたのですが、毎日礼拝があり、教室で礼拝を行うときには、「感謝」と言って自分の思っているこ

とや感じていることを、クラスメイトの前で順番に話す機会がありました。大体2か月に1回ほどで回ってくるのですが、その時も毎回なににしようか悩んだなあと、当時のことを懐かしく思い出していました。

今日は、私がいままで過ごしてきた中で、感じていることや心がけていることなどをお話しさせていただければと思います。

私が大きな転機と感じていることがいまだに三つあります。

もちろん、結婚、出産など大きい転機もありましたが、一つ目は大学に進学する時。二つ目は前職を退職したとき、三つ目は昨年仕事内容が変わった時です。

まず、一つ目は大学進学の時です。最初に私は梅花の卒業生ですとお伝えしましたが、私が梅花女子大学のことを知ったのはチャリーディングを通してでした。

関東の高校でチャリーディングをしていた私は、大会で梅花の演技を見たときに衝撃を受けました。私が高校生の頃は技術が今のようには何回転もしたり、タンプリングなどが絶対できないといけないう時代ではなかったのですが、ほかのチームとは違うオリジナリティーや綺麗さ、迫力に圧倒されたのを覚えています。それをきっかけに、梅花でチャアがしたいと思い大学を受験しました。

当時はインターネットも今のようには気軽に使える時代ではなかったですし、スマホですぐ検索するなどできなかったもので、関東にいと本場に梅花の情報がほとんどなかったんです。最初はどんな学科があるのかさえも知りませんでした。大学案内を取り寄せて、そのなかで知りえる範囲のことと想像してということくらいしかできませんでした。関東にもたくさんチャアができる学校があるじゃないという母からの言葉を聞き流しつつ、反対もされつつ、関東の大学と梅花と並行して受験をしたという感じです。

今となれば、親元を離れることになるので、親が心配する気持ちなどもわかりますがその時はた

だ、梅花でチャアがしたい！という思いだけで受験を考えていた気がします。今考えると、何も考えていなさ過ぎて、なかなか無謀なことをしているなあとと思いますが、その時は、これしかないと思っていただのでしょう。でも、この選択がなければ今の私はないわけですし、本当に大きな転機になりました。

そこからの4年間は、チャア中心に生活が回っていました。1年生の時は初めての一人暮らしや高校も強い高校ではなかったたので、練習についていくのが本当に大変でしたが、4年間通して考えると、チャアの同期、先輩、後輩に支えられ、また、チャア以外の時には学科の友人などにも支えられ4年間あつという間に過ぎていった気がします。4年間で、チームをまとめる難しさも学びましたし、ベトナム遠征やアメリカ遠征など、貴重な経験もたくさんすることができました。

二つ目は前職を退職したときです。梅花を卒業して、10年ほど一般企業で人事・総務に関わる仕事をしていました。社内でも異動があり、今までとは全く異なる仕事でした。でも異動になったからには

まずはやってみようと頑張りましたが、人間関係など精神的にしんどく、このまま続けていたら自分が壊れるなと思ったので、退職を決意しました。大きい企業でしたので、まわりからはもったいないとか、続けられ安定してるのにといいことも言われましたが、その時は不思議とそういったことは一切気にならず、その時はまだ娘たちも保育園と小学校低学年でしたし、しばらくゆつくり子育てしようかな……と思っていた。辞めたのが年末だったのですが、年が明けて、大学時代の友人と会っていた時に、辞めた事を聞いた顧問の三浦先生からお電話をいただきました。辞めてからゆつくりすると決めていたので、最初はフルタイムで仕事をするつもりがなかったのですが、何か自分で気になる部分もあり、履歴書をだし、ご縁があつて梅花で仕事をスタートすることになりました。 ただ、仕事を再開するまで何もしていない期間が2〜3か月ほどあったのですが、その期間、いつもより時間があるので、あまりに何をしたいのかわからず、仕事を持たないことが自分に向いていないと感じたのもその期間でした。	三つ目は昨年、今の企画部に異動になった時です。昨年、ステツブアップにチャレンジできる機会があり、そこにチャレンジするかどうかというのを迷っていました。同時にチアリーディング部の顧問をゆくゆくは引き継がないかというお話をいただきました。顧問の三浦先生は創部以来、30年以上部を見守ってきてくださったと思いますし、そんなことが私にできるのかとかなり迷いました。 とはいえ、私も年齢を重ねてきていますし、子供たちもまだ手はかかるものの大学生と高校生になり、だいぶ手は離れて、2人とも部活で帰宅が遅いので時間的な余裕も出てきたので、何かにチャレンジするなら良いタイミングかなと感じました。 娘たちも部活に打ち込んで頑張っているし、私も頑張るかと思つた部分もありましたし、先生の「私が始めたのも同じくらい歳のからよ」とおっしゃっていたことも一歩踏み出す勇気をもたらした言葉の一つでした。また、後々あとでやりたいと思つても、これを逃したらもう二度と得られないことかもしれないとも考えチャレンジすることになりました。	みなさんは何かを選択しないといけない時、どのように決断していますか？ その時の思いや、状況によっていろいろ悩むこともあると思います。日々の小さいことから、大きいことまで、選択することはたくさんありますが、迷ったらその環境にまずは飛び込んでやってみるということを中心にしています。 私の転機の二つ目はどちらかというとマイナスなことかもしれませんが、でも、それによって今の環境で働くことにつながっていますし、様々なことが変化しました。 あの時、チャレンジしておけばよかったなと後から思うより、自分で選択したのだから頑張る力も湧いてきます。間違っていたら、リトライすればいい、と思ひながら日々過ごしています。 私も現在の仕事についてはまだまだ始まったばかりで、企画部での仕事も、チアに関して勉強中です。でも、自分の選択が間違っていないかなと思えるように日々頑張っていきたいと思っています。 みなさんも、これから資格にチャレンジしたり、就職にむけて	だったり、ぜひ大学時代に様々なことにトライしてほしいと思います。年齢的なことだったり、体力的なことだったり、学生のうちにしかできないこともたくさんあると思います。 少しむずかしいかなと思つてもぜひその環境にチャレンジしてみてください。 難しい直面になつても、周りの人が助けてくれたり、アドバイスをもらつて進めることができたというところもあります。 私の場合、前職の友人や、自分とまったく違う仕事をしている友人など、いろいろな人と話すことも大切になっていることの一つです。 自分では思いつかなかった意見やアドバイスをもらえたり、そして話すことで息抜きになったり。人とのつながりも非常に大きな私の財産になっています。みなさんもぜひ周りをみわたしてみてください。 私も日々の生活の中で学生の皆さんからパワーをもらったり、学ぶことがたくさんあります。 これからも共に頑張っていきたいと思います！ 本日はありがとうございます。
---	--	--	--



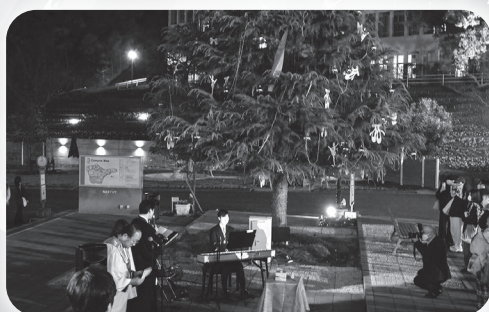
学園クリスマス標語

—2024年度クリスマス標語—

「心をつなぐクリスマス」 学生会館前

アドベント点灯式

2024年11月21日(木) 学生会館前



アドベント音楽礼拝

2024年12月2日(月) 澤山記念館礼拝堂



クリスマス・イブニング2024 クリスマス礼拝

2024年12月21日(土) 澤山記念館礼拝堂



大学クリスマス礼拝

2024年12月23日(月) 澤山記念館礼拝堂



追悼

梅花学園学園長

近藤十郎先生



近藤十郎先生

学園長の近藤十郎先生が2024年11月21日に天に召されました。81年にわたるご生涯でした。

2017年から梅花学園学園長をつとめておられました。毎週月曜に大学で開催されるチャペル・アワーにも度々ご参加いただき、学生と共に大きな声で賛美歌を歌ってくださいました。いつも学園のために祈り、学園のことを心に留めてくださいました。近藤十郎先生の上に、神様の平安がありますようにお祈り申し上げます。

故 近藤十郎先生 略歴

- 1943年1月10日 福島県郡山市に生まれる
- 1966年3月 新潟県人文部人文科学科英文学専攻卒業(文学士)
- 1969年3月 同志社大学大学院神学研究科聖書神学専攻修士課程修了(神学修士)
- 1969年4月 日本キリスト教団膳所教会担任教師(伝道師)(1970年3月迄)
- 1971年5月 ユニオン神学大学院(ニューヨーク)旧約聖書神学専攻 修士課程修了(S.T.M.)
- 1971年9月 日本キリスト教団飢肥教会主任担当教師(牧師)(1974年8月迄)
- 1971年9月 宗教法人子供の家幼稚園園長(1974年8月迄)
- 1975年9月 日本キリスト教団鳥取教会主任担任教師(牧師)(1980年3月迄)
- 1975年9月 学校法人愛真幼稚園常任理事・園長(1980年3月迄)
- 1980年4月 同志社女子大学専任講師(1983年3月迄)
- 1981年3月 滋賀県大津市立高等看護学院非常勤講師(1984年3月迄)
- 1981年4月 同志社大学神学部非常勤講師(2001年3月迄)
- 1982年4月 神戸女学院大学非常勤講師(1997年3月迄)
- 1983年4月 同志社女子大学助教授(1989年3月迄)
- 1988年9月 同志社女子大学存外研究員(米国イエール大学)(1989年8月迄)
- B.S.チャイルズ博士のもとで旧約学の研究に携わる
- 1989年4月 同志社女子大学教授(1997年3月迄)
- 1993年4月 同志社女子大学学生部長(1996年3月迄)
- 1993年4月 聖和大学教育学部非常勤講師(1996年3月迄)
- 1996年6月 学校法人同志社評議員(1999年8月迄)
- 1996年8月 学校法人同志社理事(1999年8月迄)
- 1997年4月 同志社女子大学短期大学部教授(2000年3月迄)
- 1997年4月 同志社女子大学短期大学部長(1999年3月迄)
- 1999年8月 朝日カルチャー・センター(京都講座)講師(2000年迄)
- 2000年4月 同志社女子大学教授(2008年3月迄)
- 2000年4月 同志社女子大学現代社会学部部長(2004年3月迄)
- 2002年9月 同志社女子大学大学院文学研究科日本語日本文化専攻博士課程前期科目担当教授(2008年3月迄)
- 2004年4月 同志社女子大学宗教部長(2008年3月迄)
- 2008年4月 同志社女子大学名誉教授
- 2008年4月 同志社女子大学非常勤講師(2013年3月迄)
- 2015年4月 宗教法人単立野洲キリスト教会協力牧師
- 2016年4月 学校法人聖愛学園聖愛幼稚園監事(2017年5月迄)
- 2017年4月 学校法人梅花学園学園長
- 2017年4月 学校法人梅花学園理事、常務理事
- 2017年4月 学校法人梅花学園評議員
- 2017年6月 学校法人聖愛学園聖愛幼稚園理事
- 2024年11月21日 天に召される(81歳)

近藤十郎学園長 学園葬

2024年12月27日(金)
澤山記念館礼拝堂

冬の穏やかに晴れた日の午前11時より、学園葬が執り行われました。およそ140名の方々にご参列いただき、近藤十郎先生への献花が行われました。ご遺族は近藤誠さまがご参列され、学園葬の最後に心温まるご挨拶をいただきました。



2024年11月24日に前夜式、25日に葬儀・告別式が、先生が会員として所属しておられた日本基督教団膳所教会にて執り行われました。前夜式では宗教部長の高田太先生が悼辞を述べられました。

《悼辞 高田太先生》

2017年の4月、前任原忠和先生の跡を継いで近藤先生は梅花学園学園長に就任してくださいました。当時の小阪賢一郎理事長は同志社女子大学で働いておられた頃の仲間、同志でした。小阪理事長は「昔から困った時にはいつも近藤先生、近藤先生だ」とおっしゃっていました。先生ご自身は「断りきれずに引き受けてしまった」と回顧しておられます。典型的な「No」と言えない日本人である」とも書いておられます。

私が梅花女子大学に着任して2年を経た時のことでした。

先生は新潟教会で信仰生活をスタートされました。梅花女子大学でのチャペル・アワーの後にはゲストの講師の先生を囲んで歓談のひとときを持っておりまして、

教会の日曜午後のひとときのようなこの時間を先生はとても大切にしておられました。その時間に新潟時代の思い出を語られることもありましたが、その時の先生は本当に生き生きとしておられました。

新潟教会の初代牧師は梅花女学校創立時の教員だった成瀬仁蔵でした。また、成瀬の新潟赴任を強く押したのは、それ以前に病身を押し新潟での短期間の伝道に携わった澤山保羅でした。澤山は梅花女学校の創立者で成瀬はその後輩でしたが、澤山の教えに心打たれてこれに連なっていました。澤山が自らの死を見据えざるを得ない状況で、その成瀬は大和郡山での伝道から大阪へと呼び戻されていました。誰もが澤山が牧する浪花教会の後任を期待していました。しかし、他ならぬ澤山がその最愛の弟子である成瀬を新潟へと送り出すのでした。澤山には新潟で困窮する信徒の顔が見えていたのでしょう。そうして梅花、澤山の精神、自給独立の精神で新潟教会が立てられました。先生は梅花学園と新潟教会とのそうした繋がりがなければ自分が学園長を引き受けることもなかったと、ぼつり

と漏らされたことがあります。

1927年の梅花リバイバルを引き起こし、梅花教会を生み出した堀貞一もまた新潟教会の牧師を務めていました。再臨運動のエバンジェリストとして知られる木村清松は新潟で堀牧師から洗礼を受けていますが、その木村牧師も梅花リバイバルのおりには天満教会牧師としてそこに居合わせていました。新潟から梅花への流れは確かに存在していました。祈りと信仰が届けられました。堀貞一はその後同志社教会の牧師を務めることになりました。

その同志社教会の副牧師を務められたこともある近藤先生は、梅花に着任されてすぐ、折しも、中高で聖書科の専任教員が続けて学園を去って行った中、ねばり強く私たちを導いてくださいました。多くの聖書科の非常勤講師を求めねばならなかった時、近藤誠先生を初め、すべて教会現場で働く牧師たちの協力を得ることができたのでした。集められた講師の年長者だった遠藤勇司先生は、「チーム近藤でここを乗り切りましょう」と言ってくださいましたが、近藤先生のお人柄と威徳とが

それをなさしました。

2019年度には梅花女子大学を会場にキリスト教学校教育同盟の関西地区協議会を開くことができました。同盟からその話を持ちかけられた時、とてもそのような大きな行事を引き受けることはできないと私には思われましたし、学園長にもそうお伝えしました。しかし、「自分は頼まれた仕事は断らないのだ」とおっしゃったのでした。「Noと言えない日本人」でした。懸念事項は多くありましたが、学園が一つとなって成功裏に、一つのミスも無しにこれを終えることができました。次の開催校学院長からは、「初めから終わりまで心動かされ、確信を与えられる素晴らしい会であった」とのお褒めの言葉を頂くこともできました。ひとえに学園の歴史と伝統、そして学園長の求心力の故であったと思います。

先生と同世代、草津教会の宮田誉夫牧師は近藤先生を「霊的な人だ」と評されたことがあって、それが心に残っています。与えられた仕事に忠実に、また謙虚に取り組まれる姿に多くを学ばれました。不平不満を漏らすこともな

く、誰かを批判したり傷つけたりすることもなく、しかし憤るべきは憤り、世界や教会、また学園のあるべき姿を確かに見据えておられました。信仰の人、祈りの人であり、実に霊的な人でした。同じように世に評され聖霊の導きを熱く語った牧師・澤山保羅の学園の長にこれ以上に相応しい人はいないと思っていました。

2020年初めからのコロナ禍で混乱の内に迎えた新年度、学生の構内立ち入りが禁止される中、チャペル・アワーの礼拝はオンライン・ライブ配信の形で実施することになりました。宗教部職員と私の講師の先生だけで礼拝を守らねばならないというその時に、高齢者の感染が致命的だと危ぶまれる中、学園長はいつものように、当たり前のように礼拝を守りに来てくださいました。これから世界がどうなるかという時でしたが、その姿にどれだけ励まされたことでしょう。少人数での礼拝にもいつも聖霊の風を感じることでできて、困難を乗り越えることができました。

学園長との仕事が多いのは3月、4月で、卒業式や入学式です。

中高、大学と何度も登壇せねばなりません。が、コロナ禍の中、参加人数を制限してのそれは大学だけでそれぞれ2日間4回ということもありました。私が学園の宗教主事として聖書朗読、祈禱を担当し、学園長は祝祷を担当されます。式辞や祝辞は校長や学長、理事長が担当されますから式の最後まで出番がないのですが、壇上での確かな存在感で梅花学園がキリスト教主義の学園であることを知らしめ、その度毎に深く練られた祝祷の言葉一つでそれぞれの式をまとめ上げ完成させてくださっていました。学園に連なる誰もがその姿に、その祝福の言葉に力を与えられていました。

近藤先生が学園長であるというその事実一つでも、私たちは確かに力を与えられ、いつも安心することができました。そうした希有な存在でいらつしやいました。学校での仕事も牧会である、教育牧会であると常々おっしゃっていました。しかしそのみならず教会の牧会に全身全霊を傾けておられたことは、私が言うまでも無く皆さんご存知のことでしょう。同志社女子大学で働かれながら、城

陽教会を導き続けられました。梅花に來られてからも野洲キリスト教会のことをいつも気に掛けておられました。いつ何時も牧師でいらっしゃるいました。私が、かつて先生がそうであったように同志社教会の副牧師を兼務していることを喜び、いつも励ましてくださいました。密室で祈りを共にしてくださることもありました。その姿に、その存在に、その祈りに多くを教えられました。多くを語らずとも、多くを示し、多くを託してくださいました。

学園の教学を束ねる学園長という立場にありながら、気さくに学生と交わり、ある年のクリスマス礼拝では女学生の聖歌隊に加わってください、テノールの美声を披露してくださいました。私もベースで男子二人歌声を合わせました。そうした歌うイベントにはいつも張り切って参加していただきました。

先生は昨年の9月に自伝を編んでおられました。冬休みにじっくり読ませていただきました。磐梯山を望む猪苗代湖の写真が表紙となっていました。先生のご生誕の地からの風景でした。そのご生

涯の記述を深く辿ってみて、先生をもっと理解したくなり、その地を訪れてみたい気持ちが高まりました。そうしてこの夏に、猪苗代湖畔のその場所を訪れ、新潟教会を訪れることもできました。そしてその足で自伝の記述に何度も登場する誠先生の仙台北教会を訪れました。誠先生は私と同じ年で同級生でもあり、かつて大津教会で信仰生活を共にした兄弟、同志でもありました。

ご家族を大切にされた先生でした。愛知県、南山教会牧師で愛知国際病院にも関わっておられる村山先生をチャペル・アワーズの講師にお招きしたおりに、礼拝後の歓談の時間の話題は正嗣さんのことでしたし、当時の摂津三田教会の牧師で、以前には城陽教会で先生の薫陶を受けておられた西脇先生が講師のおりには、お連れ合いの眞知子さんと一緒に参加してくださいました。笑顔でご家族のことを語られていた姿を忘れることができません。誠くんのこと、その結婚の不思議な導き、そうしてご家族に加えられた奈苗さんのこと、お二人の働きについて語られる時は本当に嬉しそうでした。

明日も梅花女子大学のチャペル・アワーズです。摂津三田教会から久保田先生をお招きします。西脇先生が去られた摂津三田教会を1年間支えられた奥村先生のお働きについてもよく聞かされていきました。不思議な導きで、また梅花との繋がりで今夏、私が摂津三田教会の講壇に招かれた際にも喜んでくださいました。明日また礼拝後に奥村先生や西脇先生の話をし、てくださるのを楽しみにしていました。教会の交わり、仲間、同胞の働きをいつも気に掛けておられた先生でした。

自伝の最後にはご自身の終わりを見据えて次のように書いておられます。「葬儀は誠に讃美歌175番、『起きよ、夜は明けぬ、ものみらは叫べり』を弾いてもらうか……『起きよ』と歌う美しい……曲を聴いたら、もう一度復活するかも知れない」。おろかな私は、自伝を読み終えたご報告のメールに、先生、175番ではなく174番ですよと書いてしまいました。明日は誠くんがオルガンを弾くでしょうか。もしそうなら先生の復活を見られないのが残念です。そうでなければ、誠くん

の奏楽で174番を歌える日を楽しみにしておきたいと思います。突然の別れに、湧き上がる寂しさを禁じることができません。しかし先生自身「人はそれまでに生きて来たように最後の時を迎える」と書いておられます。そしてその通りに、主なる神は、牧師として野洲キリスト教会のことを心に掛けていた梅花学園学園長である先生を、そのままに御許に召されたのでした。そうであれば、ここに集められた一人びとり、先生の在りし日のお姿を胸に留めて、先生の祈りを、そしてその信仰を確かに受け継ぎ、万事を益とするという神の約束への信頼のうちを歩むものでありたい、そのように心から願って、不肖私からの悼辞とさせていただきます。

いつも先生と共にいてその生涯を導かれた霊なる神に、栄光が世々とこしえにありますように。アーメン。



2024年4月22日(月)のチャペル・アワーで近藤十郎先生から奨励をいただきました。私たちに残してくださいました、その言葉を掲載いたします。

「愛の絆」

コロサイの信徒への手紙3章12～14節

I. はじめに

ただいま、ご紹介に与りました学園長の近藤十郎と申します。先週の月曜日には、第1回のチャペルがこの場所で行われ、学園の宗教主事でもあり女子大学の宗教部長でもある高田先生が、チャペルの内容について懇切丁寧に説明してくださいました。なぜ、今、梅花女子大学でチャペルが行われるのか、ご理解いただけたかと思えます。梅花中高から梅花女子大学へと進学された学生の皆さんにとっては、賛美歌を歌うことも、お祈りすることにも、さほど違和感はないかと思いますが、他の高校から梅花女子大学に入学された皆さんにとっては、このチャペルの時間が皆さんにとってどのような意味を持つのか、多少気になることであるかもしれません。しかし、早稲田でも同志社でも、慶応でも、立命でも、どこの大学でも私学の場合には、それなりの校風がありその大学が高等教育機関として、建学の精神や理念があることはもちろんのことです。国公立大学であっても、東大でも京大でも、阪大でも、それぞれの大学の気風や理念があることは皆さんもご承知のことでしょう。私自身は、高田先生もそうですが、同志社に学びましたので、創立者の新島先生が唱えられた「良心の全身に充滿したる丈夫^{丈夫}の出で来たらんことを」というメッセージを、先生方や先輩方から受け継がせていただきました。機会があれば、京都の御所の向かいにある同志社の正門を入ったところに、「良心碑」という石碑が立っていますので、一度立ち寄ってみてください。

II. 梅花のスクールモットー

私たちの梅花ももちろん、他の大学と同様、創立者の澤山保羅先生によって打ち出された建学の精神、スクールモットーと言われるものがあります。先生が愛され

た聖書の言葉、新約聖書のマタイによる福音書に出て来るイエス・キリストの言葉が、創立以来146年、梅花の精神を最も端的に表すものとして、現在まで大切に引き継がれています。「人にしても、人になりたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という聖書の言葉です。キャンパス内のあちこちに、この言葉の漢語体の標識がありますので、確かめてみてください。その意味するところは、あまりにも深すぎて簡単には説明することは難しいかもしれませんが、敢えて言えば、自己中心的な発想からではなく常に他者と隣人に仕える奉仕の精神とでも言えるでしょうか。関西学院のスクールモットーは、「Mastery for Service」、神戸女学院の場合は、「愛神愛隣」ですから、根源的にはキリスト教的な世界観、人間理解がその背景にあると言ってよいでしょう。梅花の精神も、同じような意味合いを持っていると私は思います。

III. 梅花学園での2024年度の年間聖句

梅花学園には、幼稚園から中

高、大学、大学院までを含む総合学園でそこに学ぶ園児、生徒、学生の総数は約3千人にも及びます。この3千人が一つのスクールモットーを掲げて学びの時を共にし、未来の歴史を形づくる大切な器、奉仕者として遣わされて行くのです。

梅花はここ数年、本来のスクールモットーの中身となる聖書の言葉を選び出し、それを年間聖句として掲げることにしています。豊中キャンパスでもここ茨木キャンパスでも共通に掲げる聖句です。今年は、「愛は、すべてを完成させるきずなです」という、新約聖書のコロサイの信徒への手紙の一節を取り上げました。この1年間、この聖句を年間聖句として、梅花の建学の精神を確かめる手立てにしたいと考えています。

IV. 愛の絆

今日のチャペルで、私は皆さんにお伝えしたいメッセージとして、「愛の絆」というタイトルを選ばせていただきました。何となくどこかで聞いたような、映画のラブストーリーのようなタイトルですが、そのようなものでは決し

てありません。今から146年前、梅花の創設者やその協力者たちは、まだまだ前近代的な、封建的な時代風潮が色濃く残っていた時代に本格的な女子高等教育を目指してチャレンジしました。神戸女学院も同志社女学校も梅花女学校も、殆ど時を同じくして神戸、京都、そして大阪の地に立ち上がりました。これら三つの女子高等教育機関は、いずれもキリスト教的な世界観、人間観を共通に持つ斬新かつチャレンジングな試みとして、時代に先駆けて明治の初期にスタートしました。これら三つの女学校は、言わば三姉妹の關係にあつて、現在でも互いに近しい親戚同志の交流を続けています。

梅花は、「愛なる女学校」として始まりました。愛に基づき、愛の精神に立ち、愛を実践することのできる若者たちを育成し、社会に送り出す、という尊い使命を果たすべく教育の中身が整えられました。ここ澤山記念館の一階には梅花の創設期から今日に至るまでの歴史を示す各種の資料が展示されていますから、一度ゆっくりと確かめてくださったらありがたいです。澤山先生はじめ、彼の意志

と祈りを引き継いだ先達たちの系譜を辿ることができれば、おのずと皆さんが学ばれる母校に、より一層の親しみと誇りも出て来ることと信じています。

「愛は、すべてを完成させるきずなです」という言葉は、パウロという人物が、コロサイという町にあつた教会の信徒たちに宛てた手紙の一節です。今から2千年以上も昔、キリスト教の教えの元となったイエスという人物の伝記とともに、このパウロという人が書いたと伝えられている手紙も後に新約聖書として編集されて、今日に至っています。今日はその手紙を皆さんと一緒に読んでいます。

「愛」という言葉の意味は多種多様ですが、この手紙でパウロが用いた「愛」という言葉は、ギリシャ語のアガペーの翻訳で、恋愛や友情を表す言葉ではなく、とりわけ神の愛、その神の愛を根拠として成立する隣人愛、他者に仕え、他者に奉仕する積極的な意味での愛を表現しています。パウロは、このような愛こそ人と人をつなぐ、このように尊くして固い絆になる、と説いているのです。

V. 愛を喪失した人間の現実

愛が人と人をつなぐにつける大切なキーワードだとすると、私たち人間の歴史は、愛を喪失した歴史であるとも言えるかもしれません。人と人との間に愛し合い、信頼し合つて心が通じ合う世界が本当に私たちのうちに実現できれば、世界はどれほど平和で暮らしたい世界になるのでしょうか。そんなことが果たして現実にあるのか、と冷めた目で見てしま

そのうち6千人が母親、1万9千人が孤児となつたと昨日の新聞報道(2024年4月21日朝日)にありました。ガザ地区に住む百万人以上の女性と女兒が飢餓に直面している、との記事もありました。人びとの間にあるものは、ただ激しい憎しみと怨嗟のみ、だれもこの悲惨な歴史の流れを完全に食い止めることができていないのです。

う人もいることでしょう。現実を直視すれば、人と人との間に愛の絆を確かめるといったことは到底不可能、単なる甘い理想主義、幻想にしか過ぎないと聞き直る人もいるかもしれません。人と人との間に、到底乗り越えることができないような壁があつて、その壁を打ち壊したり乗り越えたりすることとは残念ながら不可能かとも思えるような、厳しい現実があることも確かです。ロシアとウクライナの戦争によって失われた人命は少なく見積もっても5万人、パレスチナにおけるイスラエルとガザとの間の紛争によって失われた命はガザ地区だけに限っても3万4千人、死者のうち1万人以上が女性、

2010年の6月、私はイスラエルの地を訪問する機会がありました。イエス生誕の地、エルサレムの神殿の嘆きの壁、イエスの十字架刑が執行されたゴルゴタの丘、イエスが洗礼を受けたと伝えられているヨルダン川のほとり等々、鮮烈なイメージが今でも私の脳裏に焼き付いています。しかし、色々な映像の中でもとりわけ、鮮明に残っている風景の一つが、ヨルダン川西岸にあつてパレスチナの自治区との隔てのために建造中の巨大な壁の存在でした。その時も沢山の大型クレーン車が壁を作るためのコンクリートの壁材を吊り上げていました。高さは8メートルあるとガイドが教えてくれました。この壁の建築は200

2年から始まり、当時の国際司法裁判所はイスラエルに対して建造を中止するように、との勧告を行ったようですが、それは無視されました。イスラエル側ではこの壁をSecurity Wall（安全壁）と読んでいますが、パレスチナ側の人びとはこの壁のことをアパルトヘイト・ウォール（分離壁）と言っています。2007年には、ガザ地区とイスラエル側とを隔てる壁やフェンスの建造が始まり、その壁は「天井のない監獄」と言われているそうです。民族と民族との間の壁、国と国との壁は、愚かな人間がおりなす悲劇的な現実を如実に表しています。その根源にあるものは、人と人との間にある心の壁そのものであると私は思います。

VI. 壁を乗り越えるために

私たちの時代に、私たちが取り組むべき課題はおのずと明らかになってきています。人と人との間ある一つ一つの壁をどのようにして乗り越えるのか、その方法と方向性をしっかりと定めて、自身の日々の学びに取り組むかということ。梅花の精神を受け

継いで若さと情熱に溢れて新しい学びへと挑戦する皆さんには、最も大切な重要な課題と使命があることを、私は訴えてみたいのです。「愛は、すべてを完成させるきずなです」と聖書に教えられています。

私の大学生としての最初の学びは、英文学の世界でした。今から60年も以前のことで、大学の2回生の頃、寮生活でしたが、当時同室になった医学生先輩の一人が近くの教会に出入りしておられて、その先輩に誘われて教会の牧師が奨めてくれた百頁ほどの神学書を読む会に出ることにしました。そのときのテキストが、今から思うと私の後の人生の歩みを決めるきっかけを与えてくれました。P. Tillichという神学者の論文で、*Love, Power, and Justice*という小さな書物でした。その本の中に、「愛とは、分かたれたものを一つにする力」(Power of Re-union)というフレーズがあって、私はこの言葉にいたく感銘を受けました。人と人を結びつける力としての愛、この愛こそ神と愛との和解の印であると私は教えられました。憎しみや恨みが人と人

との絆を断ち切る原理であるとするれば、愛と赦し、信頼こそ絆を回復させる力そのものだと思えることができたのです。人が互いに正面から向き合い、何らの疑いも不信感もなく、身構えたり警戒したり、好まない壁を作る必要も無い、そのような世界を作り出すことができれば、未来は限りなく明るい世界になることでしょう。「愛がないと言うのなら、それを創り出さなければならぬ」と、コルベ神父さんが言ったそうです。カトリック作家の遠藤周作さんが、『女の一生』(第二部)という小説の中でそうコルベ神父に言わせています。



VII. 結びに代えて

最後に、私が今の時代を生き

るための祈りとして教えられている「平和の祈り」を一部だけ紹介させて頂きます。皆さんご存じのアッシジの聖フランシスコの「平和の祈り」の一節です。

主よ、私をあなたの平和の道具にしてください。
憎しみのあるところに愛をもたらしたまえ。

争いあるところに許しを、
疑いあるところに信仰を、
絶望あるところに希望を、
闇あるところに光を、
悲しみあるところに喜びを
もたらす人にしてください。

主よ、慰められるよりも
慰めることを、
理解されることよりも
理解すること、
愛されるよりも愛すること
求めることができますように。



宗教部一年の歩み

宗教部にとっては大きな変化の年となった。新しい体制を整えるために、宗教部の学びに重点を置きつつ、同時に学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っているチャペル・アワー(礼拝)を安定して営むために全力を注いだ。

4月
チャペル・アワーと宗教部オリエンテーションの開催

4月15日(月)3講時に澤山記念ホールにて第一回目のチャペル・アワーと宗教部のオリエンテーションを行った。講師は宗教部長の高田太先生、奏楽は水間泉先生が担当した。

学生会館の聖句の掲示

学生会館の宗教部掲示板に、毎月一年間日本文化学科教授の相奈良公仁子先生が指導されている日本文化学科の学生たちが書いた聖句の書を掲示した。

5月
青梅の収穫と販売

今年も学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。毎年5月末から6月中旬あたりの季節に収穫しているが、今年は例年より実が早くなったので、

5月中旬ごろに収穫した。売上金は、前期献金に充当した。

大阪教会創立150周年記念礼拝・愛餐会に参加

5月19日に開催された記念礼拝と愛餐会に、宗教部長の高田太先生と中高校長の菅本大二先生が参加した。

9月
同志社大学キリスト教文化センター・同志社女子大学宗教部視察・交流訪問

宗教部は5月から新たな職員が着任したので、9月13日(金)に宗教部の活動を学ぶために視察・交流訪問を行った。

口腔保健学科3年生の臨床臨地実習宣誓式の開催

9月20日(金)午前10時から澤山記念館礼拝堂にて口腔保健学科3年生の臨床臨地実習宣誓式が開催された。奨励は宗教部長の高田太先生、奏楽は水間泉先生が担当した。



日本基督教団神戸教会創立150周年記念礼拝に参加

9月29日に開催された記念礼拝とその後に開催されたシンポジウムに、

大学宗教部長の高田太先生、宗教部職員の中西と中高校教副部長の山口教子先生が参加した。



10月
澤山記念館外装改修工事

工期10月1日から12月31日で澤山記念館外装改修工事が行われた。主な工事内容は、屋根塗膜防水工事・外壁タイル洗浄、補修工事・サッシシーリング工事。



11月
アドベント点灯式の開催

11月21日(木)17時50分から学生会館前でアドベント点灯式を行った。ツリー点灯は総務部長の平木宏行さん、司会是高田太先生。奏楽はこども教育学科准教授の大西隆弘

先生が担当された。情報メディア学科非常勤講師の遠山耕三先生と情報メディア学科4年生の佐藤百々果さんに合唱していただいた。多くの方々に見守られて無事に終了した。



認定NPO法人心臓病の子どもを守る京都父母の会60周年・パンダ園50周年記念会に参加

11月23日(土)京都葵教会で開催された記念会へ、宗教部職員の中西が参加した。

12月
アドベント音楽礼拝の開催

12月2日(月)13時からアドベント音楽礼拝を開催した。奏楽は水間泉先生、司会是高田太先生。梅花女子大学吹奏楽部の皆さんによる演奏(動画)と高田先生の奨励「クリスマス」の音楽を味わう」があった。



クリスマスイブニング2024・クリスマス礼拝の開催

12月21日(土) 14時45分から澤山記念館礼拝堂にてクリスマス礼拝を開催した。司会是高田太先生、奏楽は水間泉先生が担当された。日本基督教団梅花教会牧師の山口恒先生が2024年学園クリスマス標語である「心をつなぐクリスマス」と題して奨励された。



大学クリスマス礼拝の開催

12月23日(月) 13時から大学のクリスマス礼拝を澤山記念館礼拝堂で開催した。司会是高田太先生、奏楽は水間泉先生。聖書朗読は、管理栄養学科教授の玉置好徳先生と国際英語学科教授の北村伊都子先生が担当された。日本基督教団天満教会牧師の小西望先生から「聖



壕のクリスマス」と題して奨励があった。

近藤十郎学園長学園葬

12月27日(金) 11時から澤山記念館礼拝堂にて行われた。奏楽は同志社女子大学オルガニストの高橋聖子先生、司会是高田太先生が担当された。式辞を高田先生、弔辞を小川友次理事長にしていた。およそ140名の方にご参列いただいた。



1月 創立147周年記念礼拝の開催

1月18日(土) 午前10時から澤山記念館礼拝堂にて梅花学園創立147周年記念礼拝が開催された。学園長代行の高田太先生から「わが足のともしび、わが道の光」と題して奨励があった。司会は中高宗教副部長の山口教子先生、奏楽は水間泉先生が担当された。

建学の精神に関する教職員研修会の開催

1月29日(水) 14時40分からF701教室にて建学の精神に関する教

職員研修会を開催した。宗教部長の高田太先生が「建学の精神に関する宗教部の取り組み」と題して講演された。



3月 大学・大学院卒業礼拝の開催

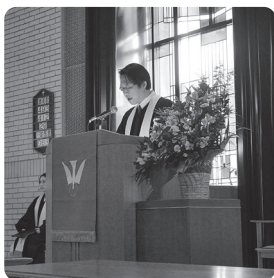
3月18日(火) 午前11時から澤山記念館礼拝堂にて大学・大学院卒業礼拝を行う。司会は宗教部長の高田太先生、奏楽は水間泉先生が担当される。奨励は日本基督教団梅花教会牧師の山口恒先生からいただく。

澤山保羅先生墓前祈禱会の開催

3月27日(木) 14時5分から大阪市設南霊園にて澤山保羅先生墓前祈禱会を行う。司会是高田太先生、奨励は中高宗教副部長の山口教子先生が担当される。

学園創立147周年記念礼拝

2024年1月18日(土)
午前10時
澤山記念館礼拝堂



2024年度



チャペル・アワー 感想文より

一部ご紹介

「チャペル・アワーとは何か？なぜチャペル・アワーがあるのか。」

本学宗教部長 高田太先生

これまでキリスト教に触れる機会がなかったため、大学でキリスト教について学べて、知ることができた機会があったよかったです。入学式で聴いていた讃美歌など改めて聴くことができ、とても良い時間でした。

「愛の絆」

梅花学園学園長 近藤十郎先生

自分が誇りに思える学び、という言葉聞いて大学での学びは自分がどれだけ積極的にやるかだと思うので自分が誇りに思える学びを4年間でできたらと思います。

国と国の壁の話をしていましたが人と人の間にも見えない壁があると思います。そのような壁も愛によって無くなればと思います。

「自分を『信じる力』に希望を得て」

本学学長・看護学科教授 河村圭子先生

人に言われたから、されたから、出来ない、出来るではなく自分で挑戦して成し遂げることが大切だなというのを実感した

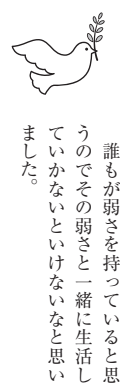
自分がどうしてもしたいことであれば、その時は出来なくても将来の出来るようにする方法と可能性を自分で考えられるようになったのかなと思います。

「あなたを想っただけで心は強くなれる」

日本基督教団浪花教会牧師 川江亜希子先生

思いやりの心を持ってこれからも生活していこうと思いました。

誰もが弱さを持つていると思うのでその弱さと一緒に生活していけないといけないなと思いました。



「シェイクスピアとキリスト教」

本学国際英語学科教授 上村幸弘先生

世界史でシェイクスピアについて習ったことがあり、興味を持っていたので、今回聴く機会があり、大変勉強になりました。また自分でも本を読み、また、宗教的な関係があるかについても注意してみようと思います。



「あなたが祈りたくなる時ってどんな時？」

本学管理栄養学科教授 玉置好徳先生

当たり前のようにな大切な人がそばにいてくれるという根拠の無い自信が崩れ落ちそうになった時の絶望は凄まじいと思います。その時に、自分に出来ることが「祈る」ことしかないと感じてしまった無力感は私も感じたことがあります。



「あとからくるきみのために」

淀川キリスト教病院チャペレン 村上茂樹先生

ネコたちの話を聞いて、自然世界では弱肉強食が当たり前のに、他の臆病なコや弱いコに対して、思い

2024年度 献金のご報告

いつも宗教部の諸活動にご協力いただきましてありがとうございます。下記送付先に集めた献金を送付いたしました。ご協力いただきました皆様に心より感謝し、ご報告申し上げます。

《 献金送付先 》 敬称略・五十音順

* 前期献金 *

・大阪水上隣保館	10,000円
・救世軍希望館	10,000円
・止揚学園	10,000円
・日本基督教団中部教区(能登半島地震募金)	10,000円
・パンダ園	10,000円
・レバノンホーム	10,000円
・振込手数料(銀行・郵便局)	854円

合 計 60,854円

* 後期 クリスマス献金 *

・大阪YMCA「2024年9月 能登半島豪雨YMCA緊急募金」	52,000円
・ガザ地区アハリー・アラブ病院支援金	13,000円
・救世軍希望館	13,000円
・止揚学園	13,000円
・パンダ園	13,000円
・レバノンホーム	13,000円
・振込手数料(銀行・郵便局)	1,068円

合 計 118,068円
総合計 178,922円

※前期献金残金2,627円は、2025年度前期献金へ繰入させていただきます。

やりの心で食事を残したり、先に食べさせてあげたりする様子が見られたと聞いて、ネコたちの優しさや思いやりの心に、感動しました。ネコたちのお互いの気遣いや相互扶助の考え方に、人よりネコの方が聖書に従っているなと考え、命を捨てるまではしてなくても、自分のために分けられた者を人の為に更に分け与えられるのは、お互いが大切だと思う心からだろうと思うと、他人への思いやりの気持ち、大切にすること、ネコたちのお話から学べた事を、自分も人にしてあげられるようにになりたいと思いました。



「寄り添いの形」

NPO法人心臓病の子どもを守る京都父母の会 理事長・パンダ園園長 藤井友紀さん

昔は、心臓病の治療で、家が立つほどの値段をしていたことをはじめて知った。これからは心臓病などについて理解や認知が広まり、もっとよりに良くなれば良いなと思いました。

「クリスマスの音楽を味わう」

本学吹奏楽部・本学宗教部長 高田太先生

これまでもずっと演奏が面白いと思うくらい素敵な演奏でした。拍手のタイミングが分からず少し残念でしたが演奏会でも頑張っていたみたいです。「もろびとこぞりて」という題だったのも初めて知りましたし歌詞があるのも初めて知りました。258番の歌も初めて聞きました。素敵な歌をたくさん聞けてとても良かったです。



「聖壇のクリスマス」

日本基督教団天満教会牧師 小西望先生

聖書の物語も歌もいつもより多く、クリスマスが豪華で大切なものであるのだと感じました。歌詞がたくさんある歌より、伸ばして音程を変える歌の方が好きでした。



2024年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月	日	奨 励 題	略 歴	奨 励 者
4	15	チャペル・アワーとは何か？ なぜチャペル・アワーがあるのか。	本学宗教部長	高田 太
	22	愛の絆	梅花学園学園長	近藤 十郎
	29	示された道	日本基督教団梅花教会牧師	山口 恒
5	13	自分を『信じる力』に希望を得て	本学学長、看護学科教授	河村 圭子
	20	梅の恵み	本学日本文化学科准教授、同窓生	重松 恵美
	27	さあ、目を上げて	日本基督教団千里聖愛教会牧師	中島 正勝
6	3	あなたを想うだけで心は強くなれる	日本基督教団浪花教会牧師	川江 亜希子
	10	絶望の中で与えられた希望の印	日本基督教団島之内教会牧師	柴田 彰
	17	100の命	止揚学園園長	福井 生
	24	夢を追いつけて	パレエダンサー、パレエ指導者、同窓生	針山 愛美
7	1	臆せずに飛び込んでみる	本学企画部職員、同窓生	大前 思枝
	8	シェイクスピアとキリスト教	本学国際英語学科教授	上村 幸弘
	15	言葉を超えて、思いを込めて	大阪教区主事	鈴木 祈
	22	主が与えてくださったものを	日本基督教団長岡教会牧師	韓 守信
	29	弱さの中に働く力	日本基督教団磐上教会牧師	成田 いうし
9	23	人にしてもらいたいと思うこと、 できてる？	本学国際英語学科准教授	北村 伊都子
	30	きっかけを掴む	日本基督教団明石教会牧師	石田 求
10	7	あなたが祈りたくなる時ってどんな時？	本学管理栄養学科教授	玉置 好徳
	21	きみの賜物と	日本基督教団鳳教会牧師	三浦 遙
	28	あとからくるきみのために	淀川キリスト教病院チャプレン	村上 茂樹
11	11	楕円の構図のように	日本基督教団同志社教会牧師	菅根 信彦
	18	寄り添いの形	NPO法人心臓病の子どもを守る京都父母の会理事長、 バンダ園園長	藤井 友紀
	25	愛するあなたへ	日本基督教団摂津三田教会牧師	久保田 愛策
12	2	クリスマスの音楽を味わう	本学吹奏楽部 本学宗教部長	吹奏楽部 高田 太
	9	聖句と私	梅花中学校・高等学校同窓生	木戸 曜子
	16	ブルー・クリスマス	日本基督教団部落解放センター主事	上野 玲奈
	23	塹壕のクリスマス	日本基督教団天満教会牧師	小西 望
1	6	平和をもたらし、災いを創造する者	日本基督教団茨木教会牧師	大橋 新
	20	人にしてもらいたいと思うことは何でも	日本基督教団浪花教会員、 奈良育英学園中・高宗教科非常勤講師	平井 洲久
	27	良い実を实らす	日本基督教団神戸雲内教会牧師	本間 優太

宗教部編集後記

少しずつ春の温かさを感じるころとなりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

2024年度は次の年間聖句が与えられ、学生・教職員と共に聖句を確認し、心に刻みながら歩んでまいりました。

「愛は、すべてを完成させるきずなです」(コロサイ信徒への手紙3章14節)
また、2024年度チャペル・アワーは、2023年度後期に引き続き、コロナ禍以前のように対面出席で行われました。出席できなかった学生・教職員には録画配信にて視聴していただく形となりました。2024年度も多くの学生・教職員の祈りに支えられ、無事にチャペル・アワーを終了することができました。ありがとうございました。

さて、最後になりましたが、2024年5月より宗教部に加わりました中西祥子と申します。新しい環境でまだまだ慣れないことも多いですが、多くの方々に支えていただき、助けもらいながら、ここまで少しずつ前進してまいりました。おかげさまで、今年度も「チャペル・ニュース」第21号を発行することができました。心より感謝申し上げます。

